

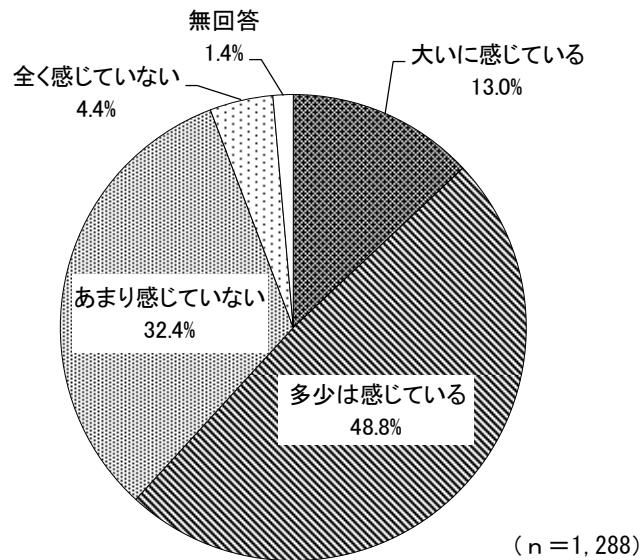
## 14 食の安全・安心について

### (1) 食品の安全性に対する不安

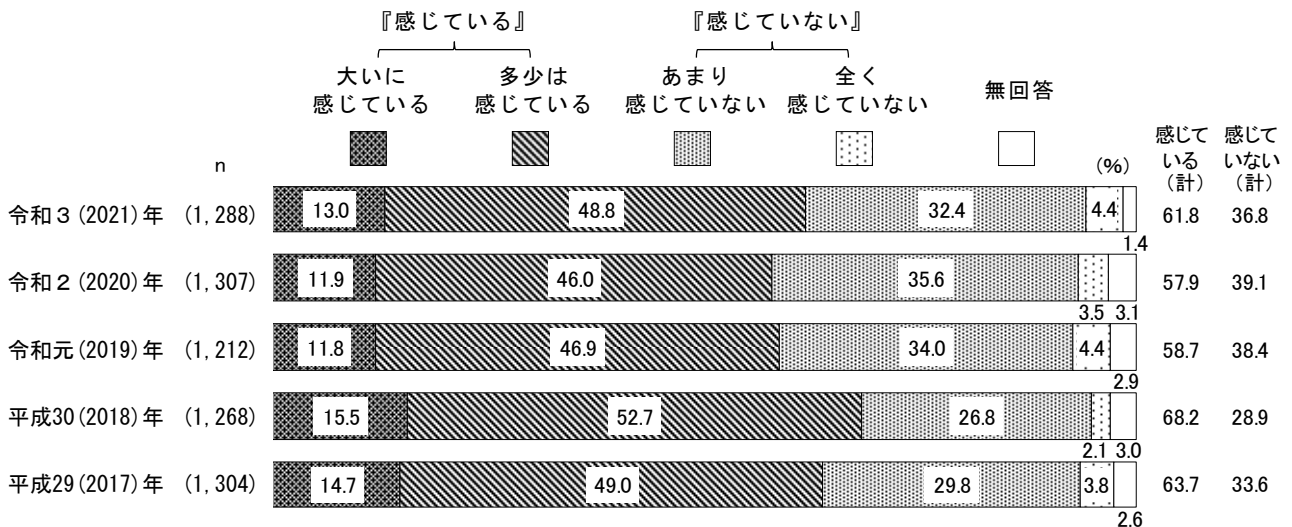
問39 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,288]

1 大いに感じている	13.0%	3 あまり感じていない	32.4%
2 多少は感じている	48.8	4 全く感じていない	4.4
		(無回答)	1.4

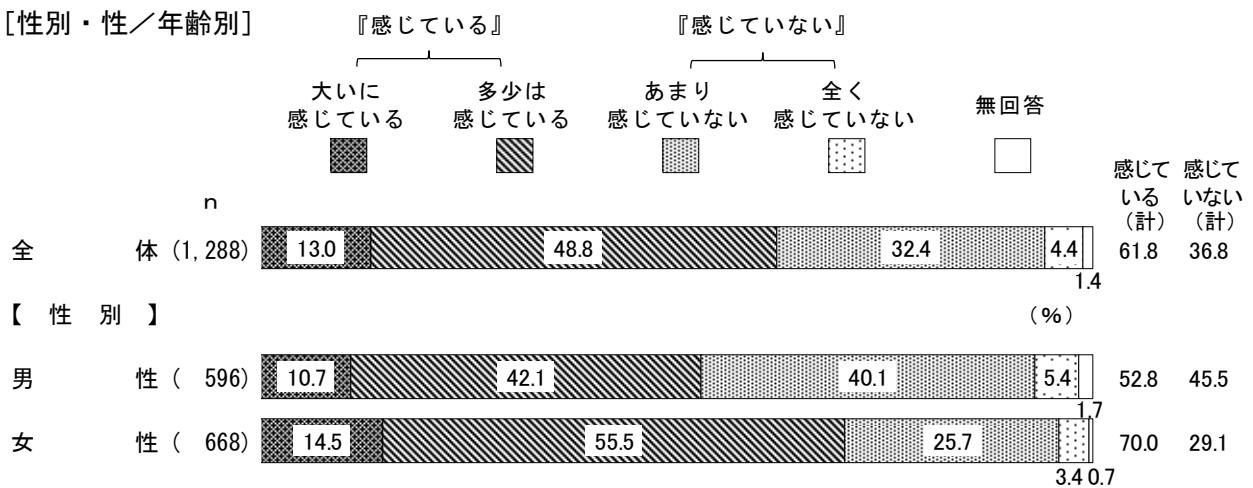


全体でみると、「大いに感じている」(13.0%)と「多少は感じている」(48.8%)の2つを合わせた『感じている』(61.8%)は6割を超えて高くなっている。一方、「あまり感じていない」(32.4%)と「全く感じていない」(4.4%)の2つを合わせた『感じていない』(36.8%)は4割近くとなっている。

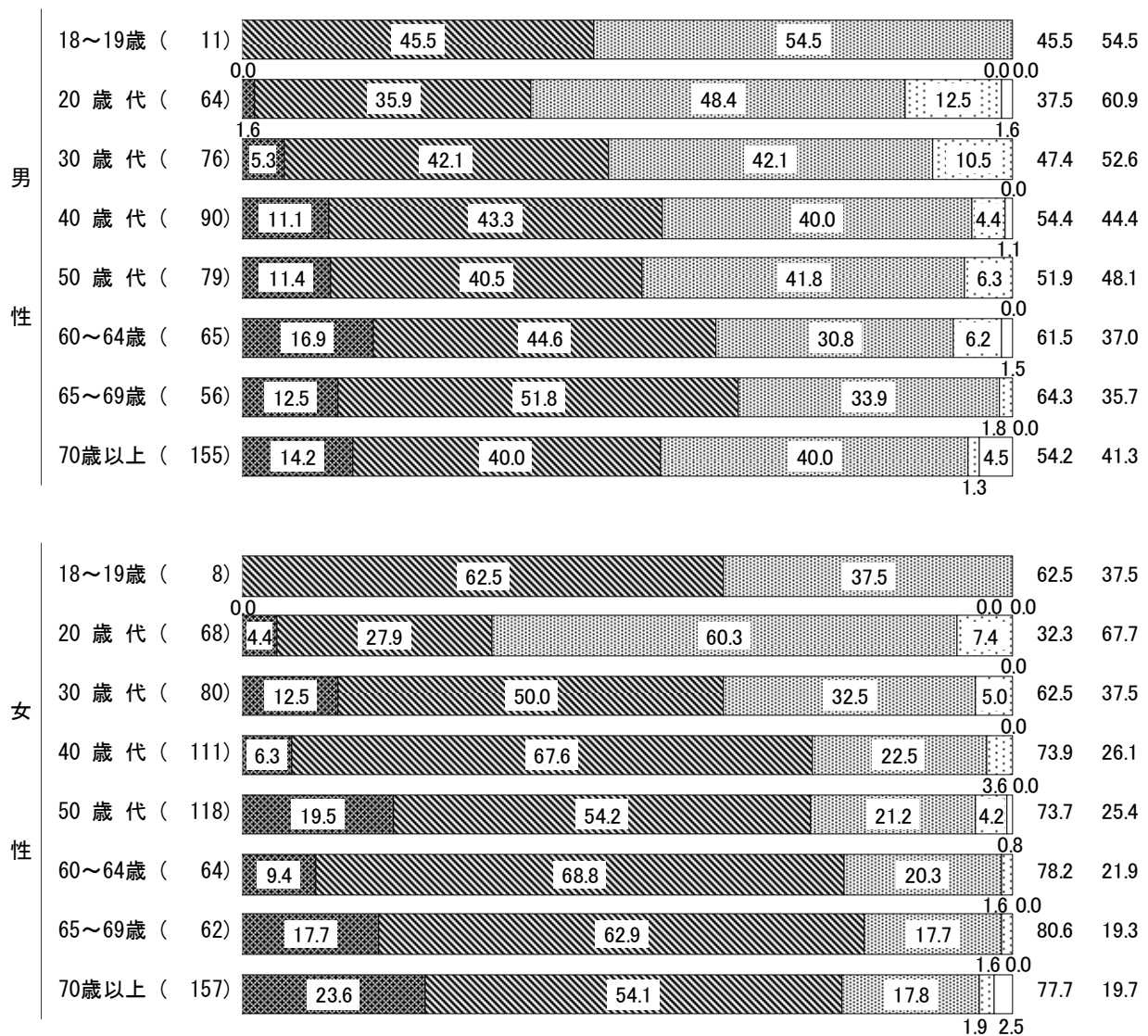


過去の調査結果と比較すると、『感じている』は前回(令和2(2020)年)より3.9ポイント増加している。

【性別・性／年齢別】



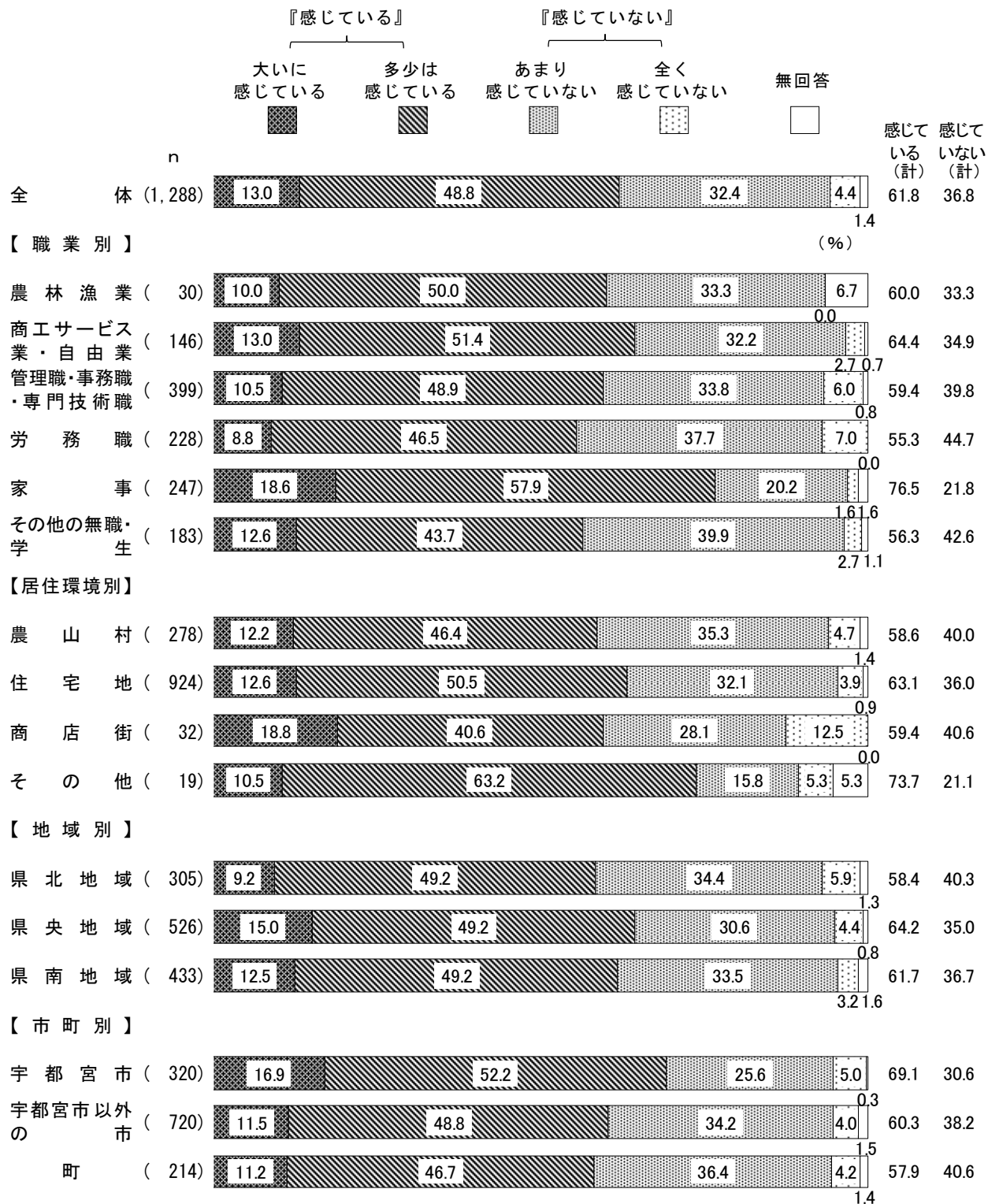
【性／年齢別】



性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(70.0%)が〈男性〉(52.8%)より17.2ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(45.5%)が〈女性〉(29.1%)より16.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じている』では〈女性65~69歳〉が80.6%、〈女性60~64歳〉が78.2%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈女性20歳代〉が67.7%、〈男性20歳代〉が60.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が76.5%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈労務職〉が44.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈住宅地〉が63.1%と高くなっている。

地域別でみると、『感じていない』では〈県北地域〉が40.3%と高くなっている。

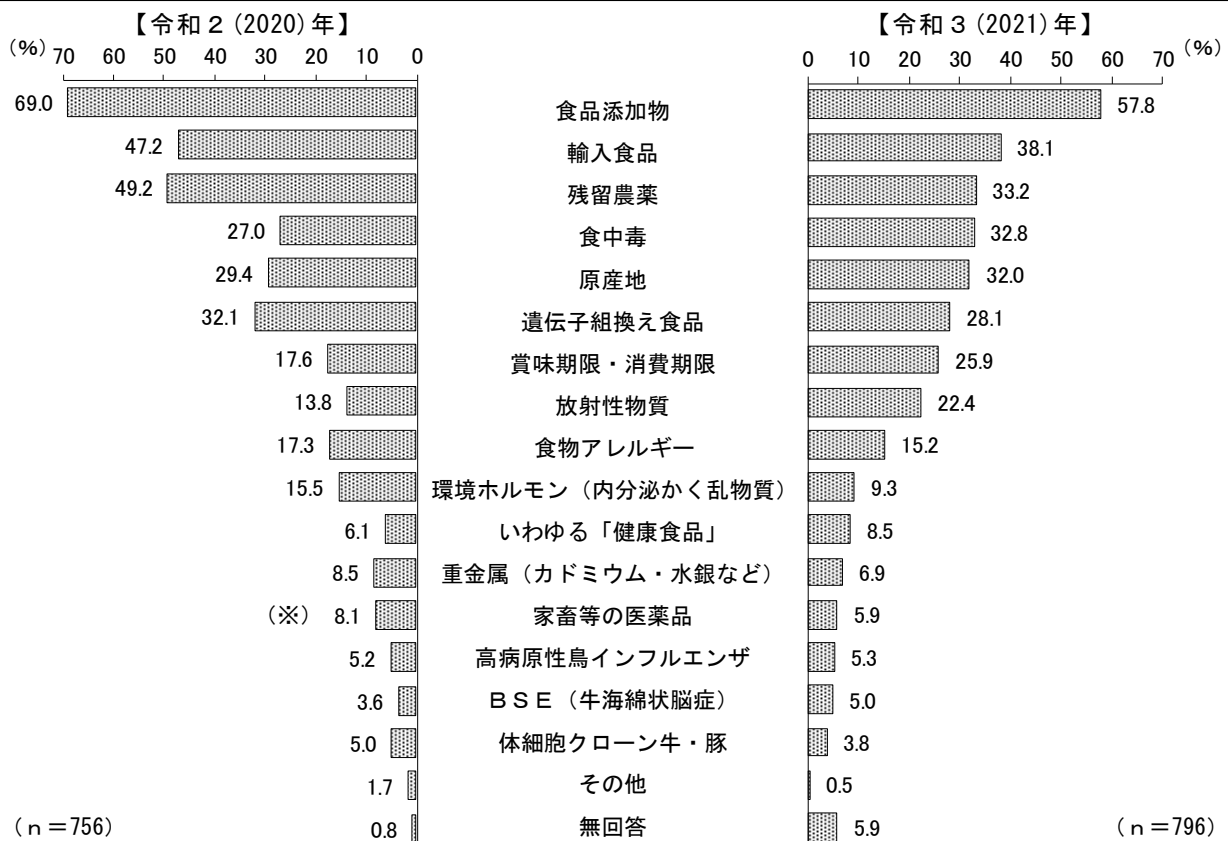
市町別でみると、『感じている』では〈宇都宮市〉が69.1%と高くなっている。

(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問39で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)  
 問39-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

[n=796]

1	食中毒	32.8%	10	遺伝子組換え食品	28.1%
2	食品添加物	57.8	11	輸入食品	38.1
3	いわゆる「健康食品」	8.5	12	BSE(牛海綿状脳症)	5.0
4	放射性物質	22.4	13	高病原性鳥インフルエンザ	5.3
5	重金属(カドミウム・水銀など)	6.9	14	体細胞クローン牛・豚	3.8
6	残留農薬	33.2	15	家畜等の医薬品	5.9
7	食物アレルギー	15.2	16	環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	9.3
8	賞味期限・消費期限	25.9	17	その他	0.5
9	原産地	32.0		(無回答)	5.9



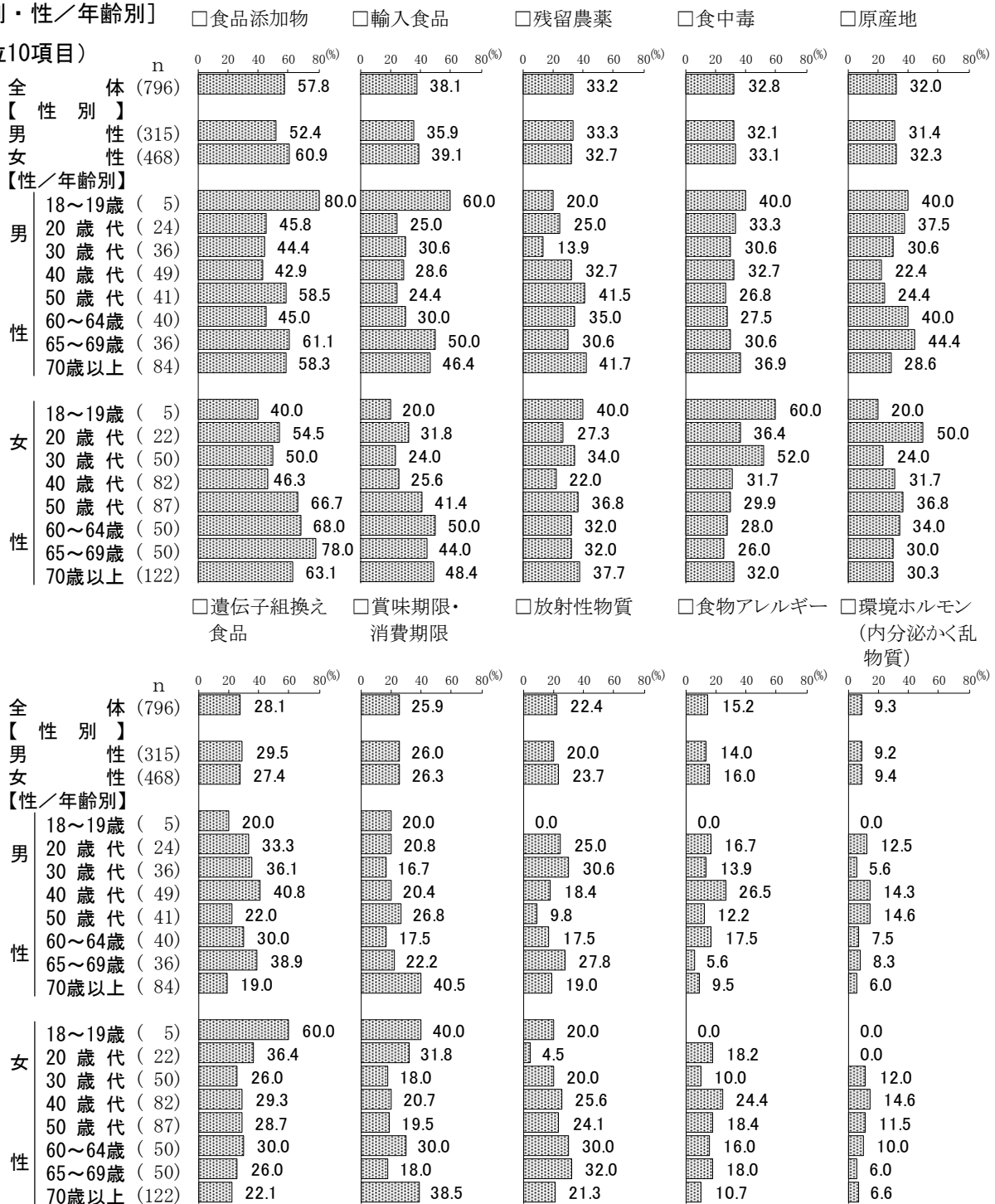
(※)「家畜等の医薬品」は、令和2(2020)年調査では「家畜の医薬品」としていた。

全体で見ると、「食品添加物」(57.8%)が6割近くで最も高く、次いで「輸入食品」(38.1%)、「残留農薬」(33.2%)、「食中毒」(32.8%)、「原産地」(32.0%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果との比較は、「残留農薬」が16.0ポイント、「食品添加物」が11.2ポイント、「輸入食品」が9.1ポイント、それぞれ減少している。一方、「放射性物質」が8.6ポイント、「賞味期限・消費期限」が8.3ポイント、それぞれ増加している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

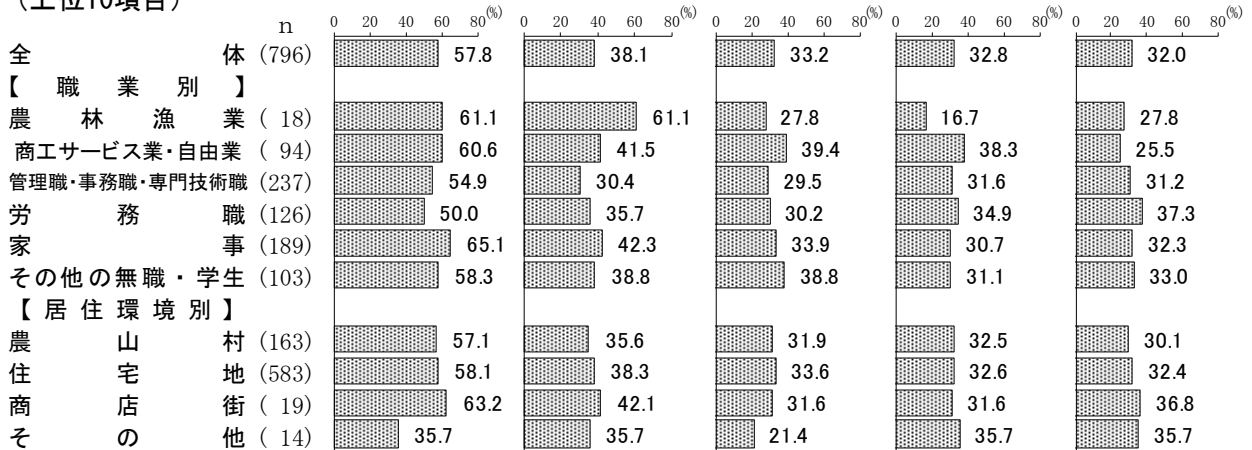


性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(60.9%)が〈男性〉(52.4%)より8.5ポイント高くなっている。

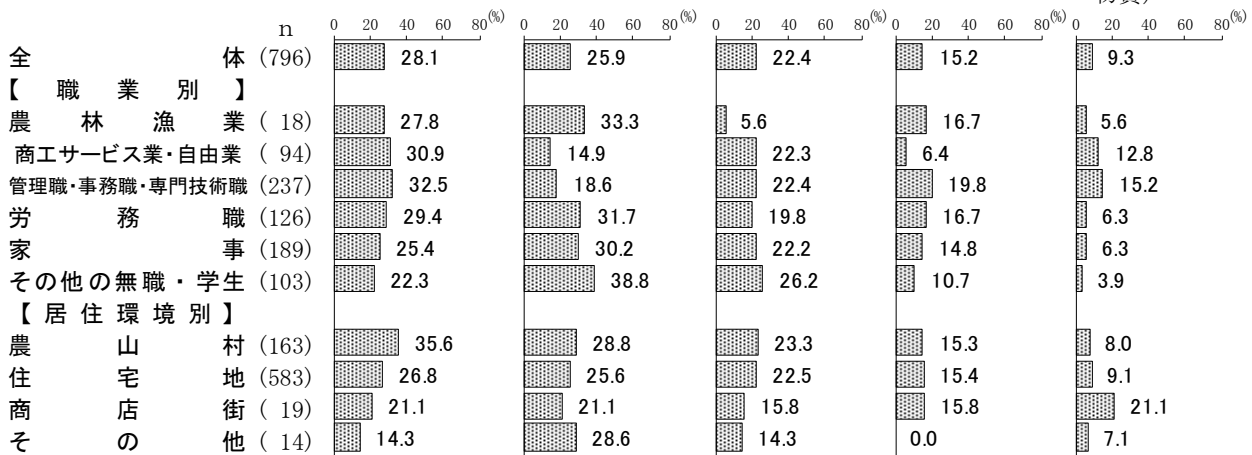
性／年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が78.0%と高くなっている。「食中毒」では〈女性30歳代〉が52.0%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性70歳以上〉が40.5%、〈女性70歳以上〉が38.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別] □食品添加物 □輸入食品 □残留農薬 □食中毒 □原産地

(上位10項目)



□遺伝子組換え食品 □賞味期限・消費期限 □放射性物質 □食物アレルギー □環境ホルモン (内分泌かく乱物質)



職業別でみると、「食品添加物」では〈家事〉が65.1%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が38.8%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が19.8%で他の職業と比べて高くなっている。「環境ホルモン(内分泌かく乱物質)」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が15.2%で他の職業と比べて高くなっている。

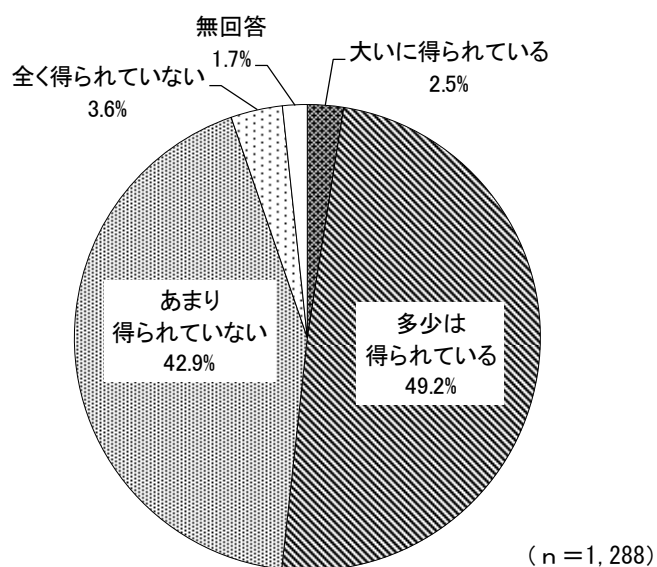
居住環境別でみると、「遺伝子組換え食品」では〈農山村〉が35.6%と高くなっている。

## (2) 食の安全に関する情報を得られているか

問40 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。

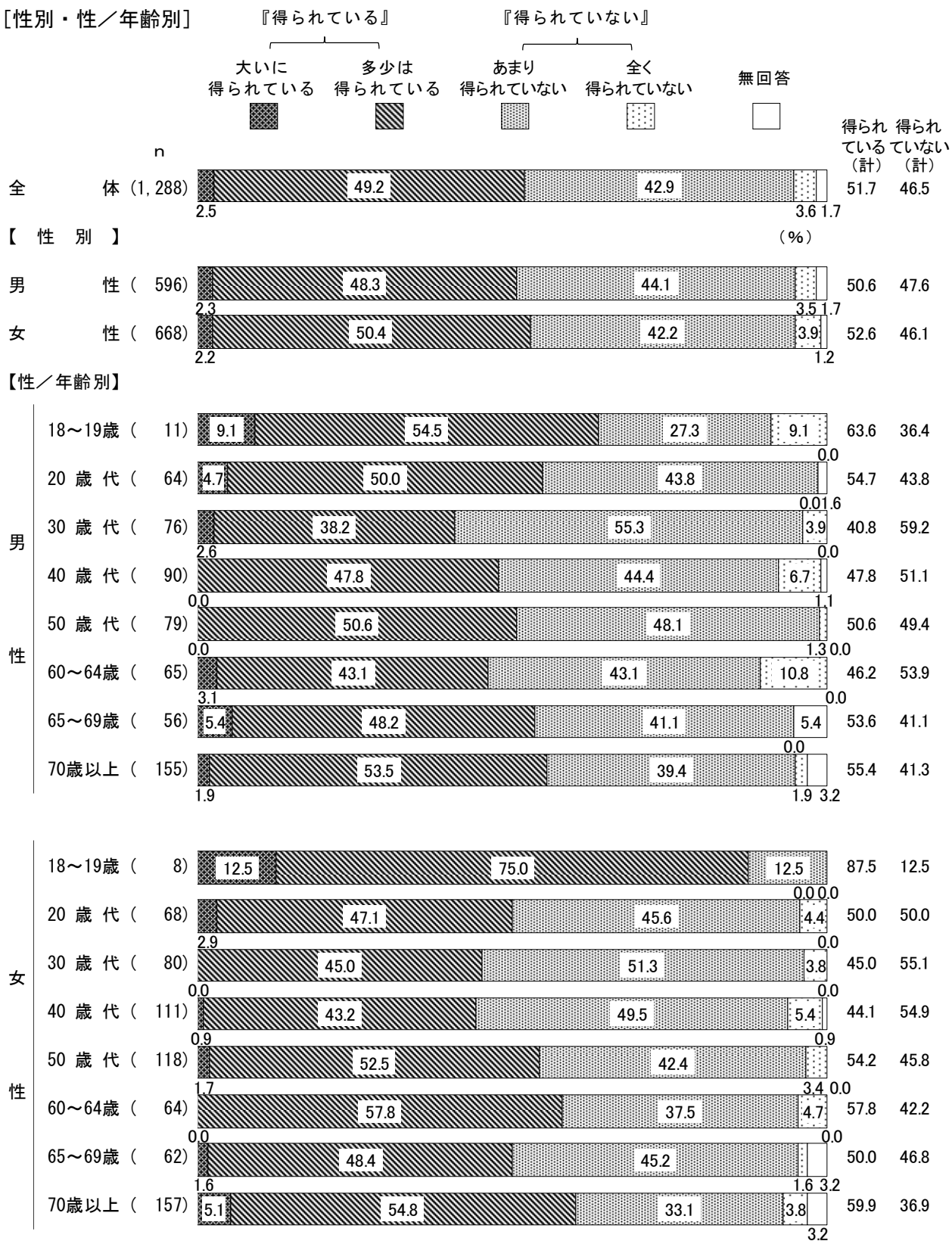
[n=1,288]

1 大いに得られている	2.5%
2 多少は得られている	49.2
3 あまり得られていない	42.9
4 全く得られていない	3.6
(無回答)	1.7



全体で見ると、「大いに得られている」(2.5%)と「多少は得られている」(49.2%)の2つを合わせた『得られている』(51.7%)は5割を超えている。一方、「あまり得られていない」(42.9%)、「全く得られていない」(3.6%)の2つを合わせた『得られていない』(46.5%)は5割近くとなっている。

【性別・性／年齢別】

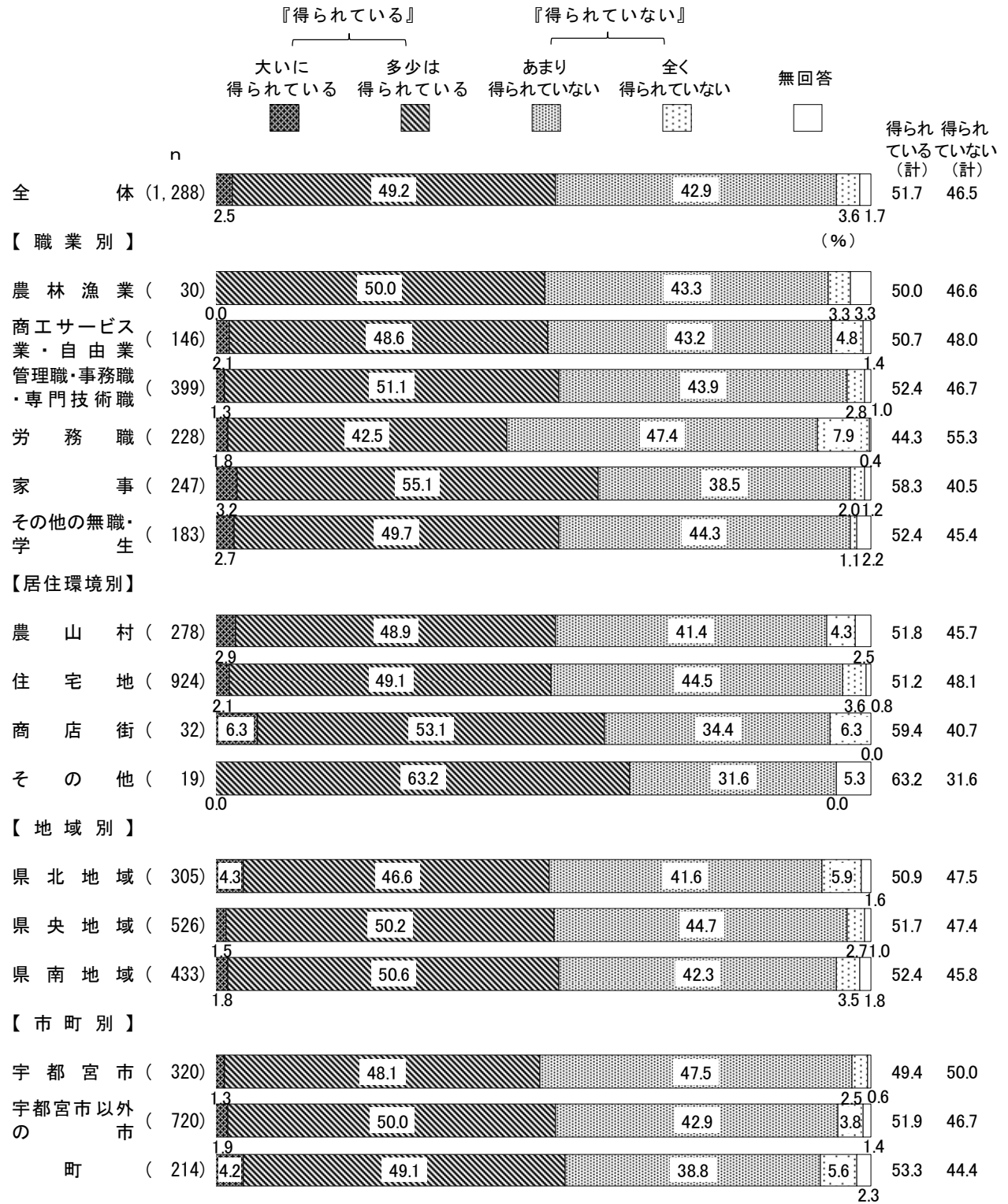


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が59.9%と高くなっている。『得られていない』では〈男性30歳代〉が59.2%と高くなっている。「全く得られていない」では〈男性60~64歳〉が10.8%で他の年代と比べて高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『得られている』では〈家事〉が58.3%と高くなっている。『得られていない』では〈労務職〉が55.3%と高くなっている。「全く得られていない」では〈労務職〉が7.9%で他の職業と比べて高くなっている。

居住環境別で見ると、『得られている』では〈商店街〉が59.4%と高くなっている。

地域別で見ると、「大いに得られている」では〈県北地域〉が4.3%で他の地域と比べて高くなっている。「全く得られていない」では〈県北地域〉が5.9%で他の地域と比べて高くなっている。

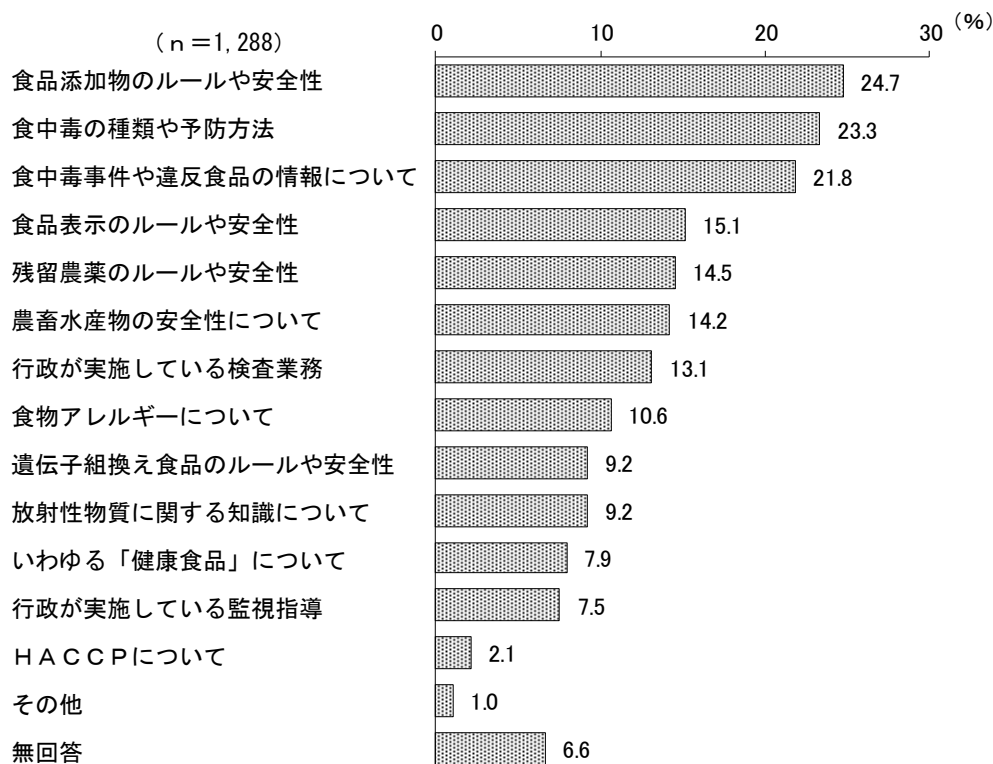
市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 食の安全について県から発信してほしいこと

問41 あなたが、県から特に発信して欲しい内容は何か。次の中から2つまで選んでください。

[n=1,288]

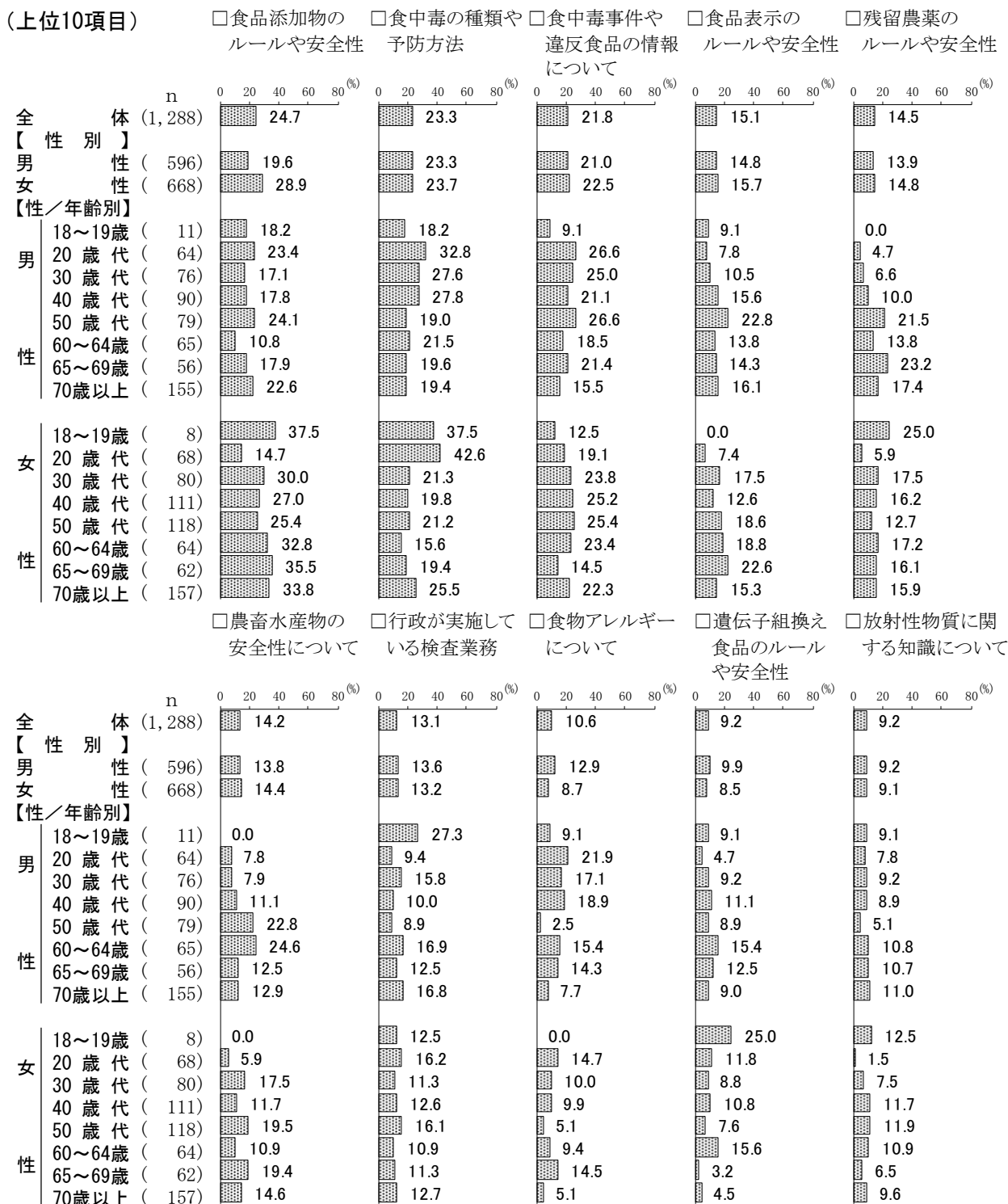
1	食中毒の種類や予防方法	23.3%
2	食品添加物のルールや安全性	24.7
3	残留農薬のルールや安全性	14.5
4	遺伝子組換え食品のルールや安全性	9.2
5	食品表示のルールや安全性	15.1
6	HACCPについて	2.1
7	行政が実施している監視指導	7.5
8	行政が実施している検査業務	13.1
9	食中毒事件や違反食品の情報について	21.8
10	農畜水産物の安全性について	14.2
11	食物アレルギーについて	10.6
12	いわゆる「健康食品」について	7.9
13	放射性物質に関する知識について	9.2
14	その他	1.0
	(無回答)	6.6



全体でみると、「食品添加物のルールや安全性」(24.7%)が2割半ばで最も高く、次いで「食中毒の種類や予防方法」(23.3%)、「食中毒事件や違反食品の情報について」(21.8%)、「食品表示のルールや安全性」(15.1%)、「残留農薬のルールや安全性」(14.5%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

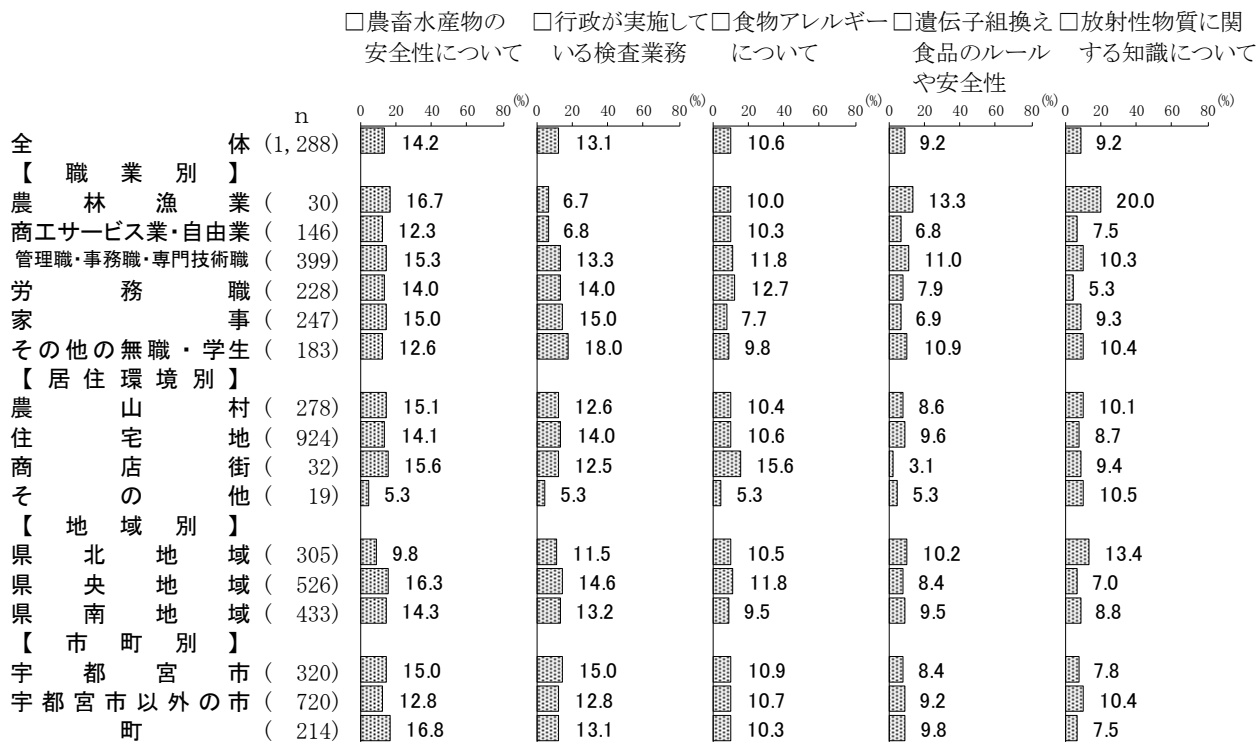
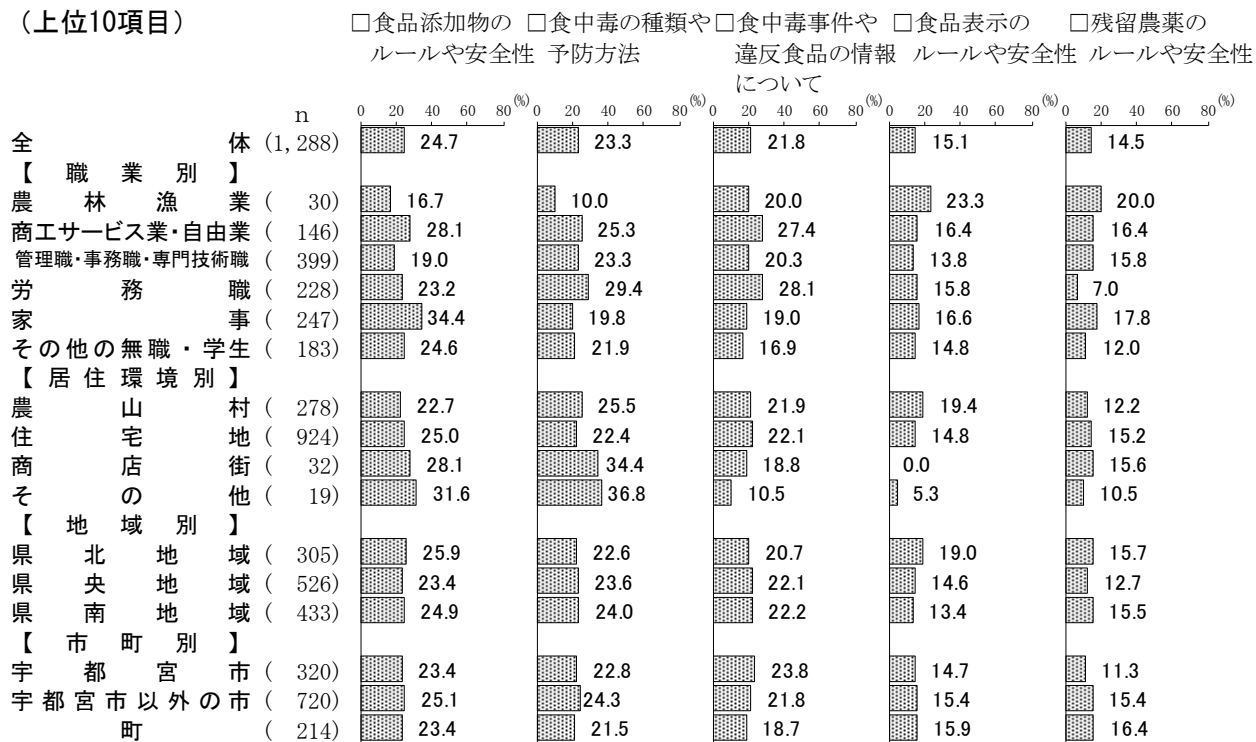


性別で見ると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性〉(28.9%)が〈男性〉(19.6%)より9.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「食品添加物のルールや安全性」では〈女性65~69歳〉が35.5%、〈女性70歳以上〉が33.8%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈女性20歳代〉が42.6%と高くなっている。「食物アレルギーについて」では〈男性20歳代〉が21.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「食品添加物のルールや安全性」では〈家事〉が34.4%と高くなっている。「食中毒の種類や予防方法」では〈労務職〉が29.4%と高くなっている。「食中毒事件や違反食品の情報について」では〈労務職〉が28.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「食品表示のルールや安全性」では〈農山村〉が19.4%で他の居住環境と比べて高くなっている。

地域別でみると、「放射性物質に関する知識について」では〈県北地域〉が13.4%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。